

『発達段階に合わせたおもちゃの紹介』

子どもにとっておもちゃとは、子どもの生活そのものであり、おもちゃは子どもが初めて出会う芸術・文化とも言えます。子どもは「見る（視覚）」、「聞く（聴覚）」、「触る（触覚）」、「舐める・味わう（味覚）」、「嗅ぐ（嗅覚）」といった、五感を通して周りの世界を認識し情報を脳に送り込みます。

質のよいおもちゃは、これらの五感を豊かに、そして複合的に刺激し、脳の中に新しい神経回路（シナプス）がどんどん作られていくのを助けます。これが脳全体の健全な発達の基礎となるのです。だからこそ、発達に合わせておもちゃが活かされることで、経験や体験がより豊かになります。

乳児期

手で掴む、口に入れる、周りの音に耳を傾ける、など五感が劇的に成長していく時期です。軽くて握りやすく、振ると優しい音が出る**ラトル**（ガラガラ）や、目で見たり、手で触ったりして遊べる**プレイマット**などがよいでしょう。

自分で歩けるようになると、好奇心や探求心が旺盛になります。指先も器用になり、つまむ、入れる、出す、をくり返し遊べる、**型はめブロック**、**スタッキングカップ**、歩く楽しさを味わえる**手押し車**や**プルトイ**などがよいでしょう。



2歳頃

はめる、通す、はさむなど、細かく器用に指を使って遊ぶようになります。**パズル**、**ひも通し**などがあるとよいでしょう。成長とともに順序や大小、色など

「分類」ができるようになるので、**ペグさし**や、色や形を分類して遊ぶおもちゃもよいですね。おままごとやお世話人形などのごっこ遊びや見立て遊びは想像力や社会性を育てます。



3歳頃

数の概念、空間的思考も育ってきます。

レゴや**マグネットブロック**などはより複雑で、創造的な作品作りが楽しめます。**パズル**は少しステップアップしたもの、**タングラム**、**立体パズル**など思考力を刺激するものがよいでしょう。



4歳、5歳頃

本格的なごっこあそびで役になりきって遊ぶので、お店屋さんやキッチンなど**模倣遊び**が楽しめるものがあるとよいですね。



また、3歳～5歳は**社会性**が育つ時期です。簡単なルールの**ボードゲーム**や**カードゲーム**は、遊びながら順番を守る、ルールを理解する、勝ち負けを受け入れるといった社会性を学びながら、思考力や集中力を養うことができます。このように、乳幼児の発達段階にはそれぞれ特徴があり、それに合ったおもちゃを選んであげることで、子どもの興味や成長を効果的にサポートできますよ。

